

名古屋市消防航空隊



名古屋市消防局

「空の上から市民を守る」それが消防航空隊の任務です



任 務

- 1 震災、風水害や火災等における被災者の救助及び避難誘導
- 2 高層ビル火災等における人命救出
- 3 林野火災等における消火活動
- 4 災害現場上空からの指揮支援
- 5 救急患者の救護及び搬送
- 6 消防隊員及び資器材の空輸
- 7 救援物資等の空輸
- 8 空からの警戒活動
- 9 広報活動
- 10 映像電送等による情報連絡

消防航空隊の活動



救助活動

ヘリコプターが着陸できない場合は、リベリング降下で救助に向かいます。



消火バケットによる消火活動

林野火災等には、川や池から水をくみ散水消火します。
(容量 約500ℓ)



救急活動

救急車による搬送が困難な場合などは、
医師等と連携し傷病者の救護にあたります。



ヘリコプター映像電送システム による画像送信

災害現場の映像をヘリコプターのテレビカメラで撮影し、防災指令センターの遠方制御監視卓へ送信します。



遠方制御監視卓

高層ビル火災発生、なごやヘリ救助に向かえ



高層ビル3階から出火した火災は、ビル館内に激しい熱気と黒煙を
充満させ多数の市民が屋上に避難しました。
上空に飛来したなごやヘリは直ちにホイスト吊り上げ救助を開始
延べ5回で17名の市民を救出しました。



(読売新聞提供)

ヘリコプターによるホイスト吊り上げ救助

機動力を発揮します

阪神・淡路大震災、長野県蒲原沢土石流災害、ロシア船籍ナホトカ号重油流出事故などの国内における災害はもとより、平成9年10月にはインドネシア国の大規模な森林火災に対して、国際緊急援助隊（国際消防救助隊）として災害派遣されました。機動力を発揮した消防航空隊の活動は、国の内外において高く評価されました。



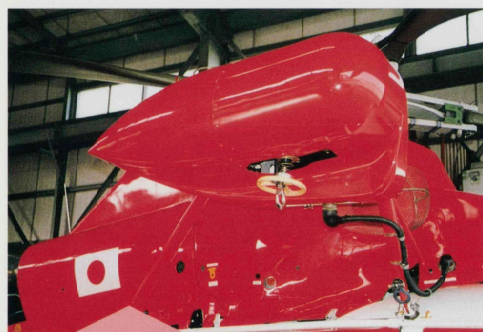
インドネシア森林火災の活動状況



空輸される「なごや2」



アエロスパシアル式SA365N1型ドーファン2「なごや」
アエロスパシアル式AS365N2型ドーファン2「なごや2」
(写真は「なごや2」)



ホイスト装置

吊り上げ、吊り下げ能力272kg ワイヤー長さ90m



消防ヘリコプターの操縦席

AS365N2型ドーファン2

■消防ヘリコプターの性能

最大速度	巡航速度	最大航続距離	最大航続時間	燃料搭載量
315km/h	260km/h	884km	3時間30分	1158ℓ
最大出力	全備重量	座席数	担架数	吊り下げ能力
763馬力×2	4250kg	14座席	4基	1600kg

■その他の装備

拡声装置 (スピーカー)
照明装置 (サーチライト)
発煙装置 (スモーク)
救命浮舟 (ボート)

安全運航をめざして

いつ発生するか予測できない災害に備え、
ヘリコプターの整備には常に万全を期しています。



飛行前、飛行後点検を始め、規定飛行時間ごとに点検整備を行います。

名古屋市消防航空隊のあゆみ

- 昭和48年 3月 SA316BアルウエットⅢ型ヘリコプターを導入「なごや」と命名
- 昭和48年 4月 名古屋市消防航空隊を設置。基地(ヘリポート)を名古屋空港内におき、運用開始
- 昭和48年 9月 名古屋市、京都市、大阪市及び神戸市で「四都市航空消防相互応援協定」を締結
- 昭和55年12月 名古屋空港内北西部に格納庫を新設
- 昭和56年 3月 SA365C1型ドーファン2ヘリコプターを2号機として導入
- 昭和56年 5月 2号機を「なごや2」と命名。2機運用体制開始
- 昭和63年 5月 「なごや」の更新機としてSA365N1型ドーファン2ヘリコプターを導入し、
双発機2機による運用を開始
- 平成元年4月 ヘリコプター映像電送システムの運用を開始
- 平成4年2月 1号機の再活用として、各務原市航空宇宙博物館での展示を決定
- 平成8年3月 「なごや2」の更新機としてAS365N2型ドーファン2ヘリコプターを導入
- 平成8年7月 2号機の再活用として、港防災センターでの展示を決定

名古屋市消防航空隊



名古屋市消防航空隊

愛知県西春日井郡豊山町豊場
名古屋空港内

TEL(0568)28-0119

FAX(0568)28-0721

(消防航空隊への来隊は事前に許可が必要です)

発行年月 平成10年3月